

第9章

宇宙人の唯心論量子医学

9.1 宇宙へ行く時に必要なハイテク医療技術

我々が旅行へ旅立つ時どうしても無視できないことがある。

それはなんだろうか？

そう、病気になった時どうするかということだ。だれもが旅行で知らない土地へ行くときには、風邪引いたらどうしよう、下痢になったらどうしよう、熱が出たらどうしよう、コンタクトをなくしたらどうしよう、こういった事を考える。その時のために、薬を準備する。病院へ行く場合も考えて、保険証は携帯し、ときには旅行保険のことも手配するだろう。旅行保険は海外旅行では必須案件だ。

アメリカの医療費はバカ高い。保険に入っていないで入院したら莫大な治療費を請求される。だから、旅行の前にはかならず旅行保険に入る。しかしながら、これは病院がある地球だからの話。医者がいるから、まだ安心だ。

最近私は軽度の一過性の脳梗塞にかかってしまった。すぐに緊急で大きな病院へ行った。そこで簡単な脳反応のための目の検査から始まり、血液検査、そして、MRI を行った。1 週間後に心臓エコー検査および 24 時間心電図検査などを行った。幸い脳にもどこにも問題はなかった。どうやら長年の食生活のせいで高血圧だったことが原因だった。その上に週 20 キロのジョグをしたりのために心臓が弱っていた。そこに長時間のデスクワークでエコノミー症候群になり、心臓でできた血栓が脳に飛んだのだ。すぐに対処できたから幸運だった。

この間、私は最近の自分の血圧を全く知らなかった。家には血圧計もあったが、自分の健康に自信があり、全く使っていなかったのだ。もしもっと前に自分の血圧の変化や体調の異変に気づいていれば、こういうことにはならなかったに違いない。

最近では、腕時計型の血圧計もあったり、ネットにはスマートウォッチだらけだ。こういうスマートウォッチのようなものは検査キットの一種だ。

もし宇宙空間の人工衛星の中だったらどうするのか？ 外宇宙ではこういう場合どうするのか？

医者はそこにはいない。治療する場所や病院や治療機は積んでいない。だとすれば、健康状態をいつもチェックし、事前に対処して、健康を維持しなければならないだろう。そういうための機械や装置や器具が必要だ。

もしスマートウォッチを拡張したようなスマートベッドのようなものがあったらどうだろうか？

実際、宇宙船の中には、医師の代わりを行いスマートベッドが存在する。宇宙へ出るには、こういう科学技術が必須なのだ。

9.1.1 宇宙人による拉致誘拐事件とハイテク治療

そもそも、どうしてこの世界にマイクロチップや内視鏡や腹腔鏡が流行し始めたのだろうか？

内視鏡^{*1}は、19世紀にはその概念や原理が知られていた。腹腔鏡^{*2}は、20世紀のはじめには知られていたのだ。しかし、20世紀後半までまったく進歩がなかった。完全に忘れられていたわけだ。

ところが、20世紀後半になって一気に進歩した。それは、おそらくこんな事情が真相だ。

1970年代、UFO 特番の時代になった。すると、頻繁に宇宙人による拉致誘拐事件が出てきた。さらには、「キャトル・ミュージェネレーション」事件^{*3}が報告されるようになったのだ。

拉致事件とはこんなものが典型だった。

まず地球人のだれかが、地球のどこかで UFO に光線銃でさらわれる。さらわれた地球人は、何か宇宙船の中で何か手術台のような場所にさせられる。その時、小さな緑色の小人のようなグレイ宇宙人に取り囲まれる。彼らはなにか棒のようなものを使って、その人の頭の中や身体の中に目に見えない小さなものを入れる。気がつくと地球に戻り、元のままの生活にもどっている。しかし、どうしてそこにいるのか自分は知らない。時間が何時間か経っている。自分がその間にど

^{*1} <https://ja.wikipedia.org/wiki/内視鏡>

^{*2} <https://ja.wikipedia.org/wiki/腹腔鏡>

^{*3} 牛の血を吸い取って殺すこと

こで何をしていたのか思い出せない。ところが、家に帰って数日経つと身体のどこかに手術の小さな跡がある。それを調べると、中になにか未知の小さな金属の石の破片(チップ)のようなものが入っている。人によっては、ときには、そこで宇宙人から光線のようなものを照射された。帰ってきたら、自分の大きな病気の患部が消えていた。そういう事実が催眠術で退行催眠を施し、記憶を探ってやっとわかった。

そういう事件が続々と報告されるようになったのだ。

そこから、何か小さな物質を「マイクロチップ」と呼び始めたのだ。一方、手術台の何かの棒のような装置の報告から、再び腹腔鏡手術の考え方がアメリカで脚光を浴びたのだ。

マイクロチップやコンピュータ制御による腹腔鏡手術の考え方は、宇宙人の科学技術のコピーだったのだ。これらは現代の医療科学技術の代表格となりつつある。つまり、宇宙人による拉致事件が、いま現代のハイテク医療のスタイルを研究させる動機になったとも言えるのだ。

こういうことは、宇宙人でなくとも必要だ。できれば、手術などしないで、電磁波や光線を浴びせて治療したい。実は、おそらくニコラ・テスラが最初にこういう手法を考え始めたのだ。

9.2 ジアルテミーとハイパーサミア

第4章「ニコラ・テスラの未踏科学」で見たように、ニコラ・テスラは1890年にテスラコイルを発明した。それをを用いて彼は、高周波高電圧の技術を自由自在に使いこなしていた。さらに彼は、

そのテクノロジーを用いて、物質と電磁波を共鳴させてどうなるかという実験を繰り返したのだ。最初は真空管と共振さようというところから始まった。そのうち、生物細胞と共振、そして人体と共振というようなことを考えたわけだ。

つまり、テスラは人体の各部分とどの周波数とが共振するか？

生命体とどの周波数が共振するか？

これを超高周波電磁波、低周波電磁波など、および力学的振動などで研究したのだ。

その後、ドイツ人のウィルヘルム・ライヒ博士がニコラ・テスラのこの分野の後継者になり研究を行った。そこから、彼のオルゴンエネルギーの概念とともにドイツに拡がり、全世界へ拡がったのだ。その中に、ジアルテミーとハイパーサミアという分野を生み出した。

ジアテルミー^{*4}は、銭湯の湯の中へ入るとビリビリ来るあれだ。あるいは、接骨医や形成外科医やリハビリ施設で、肩の凝った場所や腰痛の箇所を当てる。すると、ビリビリきてマッサージされる装置のようなものだ。通常、危険のない高周波低電流で行うものである。患部を高周波電磁波で共振させて、リラックスさせるものだ。

ハイパーサミアは、高周波が人体を温める作用を用いる。これで患部を温めて患部の治療にあてる。ときに、がん治療にも応用される。なぜなら、がん細胞は熱に弱いことが知られているからだ。

ウィキペディアの説明ではこうなっている^{*5}。

ジアテルミー (Diathermy) とは、電氣的に誘導された熱、

^{*4} Diathermy; <https://en.wikipedia.org/wiki/Diathermy>.

^{*5} Diathermy; <https://en.wikipedia.org/wiki/Diathermy>.



図 9.1 ジアテルミー治療器
<https://ikakikai-hozon.org/collection/ジアテルミー治療器/>

あるいは物理療法や外科手術の際に高周波電磁流を使用することである。1907年、ドイツ人医師カール・フランツ・ナーゲルシュミットが、ギリシャ語の dia と $\theta \acute{\epsilon} \rho \mu \eta$ therma を組み合わせて diathermy と命名したのが始まりである。

ジアテルミーは、一般的には筋肉を弛緩させたり、医療において治療目的で組織に深い熱を与えるために使用されます。理学療法では、身体の深部組織の病的な病変に直接、適度な熱を与えるために使用される。

ジアテルミーは、超音波（超音波ジアテルミー）、1～100MHzの短波電波（短波ジアテルミー）、915MHzまたは2.45GHzのマイクロ波（マイクロ波ジアテルミー）の3つの方法で行われ、主にその浸透能力に違いがある [4]。ジアテルミーは物理的な効果を発揮し、さまざまな生理的反応を

引き起こす。

また、新生物（がん、腫瘍）、いぼ、感染した組織を破壊するために、より高い組織温度を作り出すのにも同じ手法が用いられ、これはハイパーサーミア治療と呼ばれる。外科手術では、過度の出血を防ぐために血管を焼灼するためにジアテルミーが使われる。特に脳外科や目の手術ではその威力を発揮します。

しかしながら、ドイツ人医師カール・フランツ・ナーゲルシュミットがやったことは、名前を発明したことだけだ。事実、彼は技術者ではない。いまの人たちは、ここをまったく誤解しているわけだ。こうして、間違った知識がウィキペディアから広がる。

9.3 電磁波による再生治療

実はこのタイプの医療は、すでに第7章 7.4「スタン・デヨ博士の登場：電磁反重力エンジン：ボスはエドワード・テラー博士だった！」で見たのだ。そこで見たように、1977年のスタン・デヨ博士の時代に次世代科学医療のテーマとされたのだ。その頃、その研究部門の長エドワード・テラー博士から、医療関係のテーマが課題としてすでに以下のようなものが与えられていたのだ。

- ・(2) 新型の薬。電磁プラズマやバイオプラズマを使い皮膚や組織の再生回復ができる技術。
- ・(6) 極低周波の電磁波で人の心をコントロールする技術。

この(2)の方が、ニコラ・テスラの行った高周波医療に端を発し

たものだ。その「電磁プラズマ」というのが、ニコラ・テスラの高周波のものだ。一方、「バイオプラズマ」というのは、その後、ウィルヘルム・ライヒ博士のオルゴンエネルギーを用いるものといえるだろう。

また、(6) の低周波の電磁波で心をコントロールするというのが、ウッドペッカーと呼ばれたものだ。これは、キツツキが木を叩く音のように、カッカッカッカ... というような、周波数 10 ヘルツ程度の低周波で人の脳に直に影響を与えるものだ。

いずれも、何らかの電磁波あるいは光線のようなものを浴びせて、医療行為を行う装置の開発ということだ。特に、電磁波でがん細胞を破壊したり、病気の患部の細胞を再生させること。しかしながら、そのためには、どうしても必要なことがある。

それは、最初にニコラ・テスラが考えたことに繋がる。つまり、電磁波と物質および (そうした物質で構成された) 生命体とを共振させる場合、ターゲットになる物質および生命体の固有周波数 (固有振動数) を知らなければならない。さもなくば、共振させることができない。だから、ニコラ・テスラはこれを研究したわけだ。

こういったことがロズウェル事件以来、米軍の研究所の最高テーマになっていたということの意味するのだ。そして、いまやそれが実現済みかもしれないのだ。

9.4 大村恵昭先生の O リングテスト

ところで、O リングテストをご存知だろうか？

では、大村恵昭先生をご存知だろうか？

O リングテストとは、医師が患者の患部や病気を発見するため



図 9.2 O リン グ テ ス ト
O リン グ テ ス ト っ て ご 存 知 で す か ?
<https://www.mg-clinic.com/blog/2015/08/o-ring-test.html>
<https://www.54-luck.com/view/55>

の簡易検査法のことだ*6。現場で応急措置を行うためにはその原因をすばやく知らなければならない。しかしながら、辺鄙な場所やスポーツ現場のような大きな医療機器の持ち込めない場所では、現代科学の医療検査はできない。そんな場合に、当たれば大儲けの精神でもやらないよりやったほうが良い。そういう経験的なことから生まれたものだ。

このテストの考案者、それがニューヨークの病院にいる大村恵昭先生だった。

いま現在のウィキペディアの説明には次のようにある。

筋の緊張を利用して生体情報を感知する検査手技で、「生体そのものが極めて敏感なセンサーで、毒物を近づけたり、

*6 <https://ja.wikipedia.org/wiki/O-リングテスト>



図 9.3 大村恵昭先生
「O リングテスト入門」

<https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309270791/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/O-リングテスト>

体に合わない薬剤を手にしたせたりすると、筋の緊張は低下し、逆に有効な薬剤では緊張が良好に保たれる」という原理もしくは信念に基づいている。患者が手の指で輪（O-リング）を作り、診断者も指で輪を作って患者の指の輪を引っ張り、輪が離れるかどうかで診断する。この時、患者の体の異常がある部分を触ったり、患者の空いたほうの手で有害な薬や食物を持つと、患者の指の力が弱まり O-リングが開く、とされる。もともとこれはアプライドキネシオロジーの応用で、当初は腕の力の強弱による診断だった。のちにそれが指の力でも診断可能とされ、この診断方法が提唱された。大村

恵昭が1977年頃に考案した方法で、脳の血液循環と握力の関係を研究する過程で着想を得、実験で脳の血液循環が良い方の側の握力が強くなり、脳と手の筋力、特に指の筋力が非常に密接に関連していることに気が付いたとされ、1981年に論文が発表され、1993年に米国特許 5188107 を取得している。

むろん、ニコラ・テスラ同様にこうした医療の説明には、必ず後半に根拠のない「ニセ医学」の“評判”が加えられる。

ところが、いまや男子テニスの世界ランク第1位のノバク・ジョコビッチ選手^{*7}のことを知っているだろうか？

ノバク・ジョコビッチ選手は、まだ世界一になる前の世界2位くらいでとどまっていた頃、ある試合の最中にアナフィラキシーショックで試合中に倒れたのだ。たまたまその場にいる医師が、このOリングテストを知っていてこれを行った。その結果、原因はなにかのアレルギー発作だということが発覚したのだ。その後、ノバク・ジョコビッチ選手は、それが小麦に含まれるグルテンアレルギーだったことを知る。それから彼は同じセルビア人の医師から食事指導を受けて体質改善を試みた。その成果が出て、試合中でも疲れなくなくなり、ついに世界1位になったのだ。

むろん、この事実で一番大事な、現場におけるOリングテストのことは、本人の口でしか語られていない。代替医療が、ニセ医学だというのは簡単だ。しかし、それが人の命をたくさん救っていることも事実なのだ。

^{*7} <https://ja.wikipedia.org/wiki/ノバク・ジョコビッチ>

科学に疎い人は、なんでもすぐに「科学的」というが、マイケル・ファラデーの時代やニコラ・テスラの時代からそして現代のいまに至っても、科学的に根拠を証明するというのはそう簡単なことではないのだ。だから、経験的事実というものをどう考えるかがきわめて大事なのだ。

O リングテストが有効なのは経験的事実である。しかし、いま現在の科学や科学の考え方ではうまく説明できない。そういうカテゴリーに入る現象にすぎない。

いまでは、自分1人で行える小物まで発売されている。実際、私



図 9.4 セ ル フ オ ー
セルフオ（セルフ・オーリング・テスター）（神代文字グッズ）
<https://hikarulandpark.jp/shopdetail/000000000180/>

が第73世武内宿禰^{たけのうちすくね}との講演会を行った時、講演後の直会にヒーラーの若者が来ていた。その会には私の妻が同席していた。その頃、妻は足にずっと左膝に鈍痛があつてなかなか治らない。そこで、そのヒーラーが見てくれるとだったので、診てもらったのだ。すると、彼はこのテスターを取り出して、妻の手をとり確かめ始めたのだ。しばらくして、彼は原因を探り当てた。そして、今度は妻の

右上の肘関節の内側を押して、「ここが痛くないか」と聞いた。妻は、すごく痛いと答えると、彼はそこを自分で押すように言ったのだ。だから、自分でも押したのだ。ところが、しばらくして、左膝の関節通が綺麗サッパリ消えたのだ。なんと不思議なことがあるものか？ きつねににつままれたような気分だが、それ以来妻はその場所の痛みがなくなったのだ。

これは、Oリングテストでいわゆるツボが発見できることを意味するのだ。

ちなみに、私を弟子にしてくれないかと大村恵昭先生に聞いたところ、お前は物理学者だからダメだと言われたのだ。なぜなら、先生が物理学者たちからこれまでずっと自分を偽物だと言われて、痛めつけられてきたからだというのだった。私は、まあそうだろうなと思ったが、看護師なら OK だという話だった。

9.5 大村恵昭先生のツボテスト

ところで、ツボ、経絡という概念がある。この歴史は中国3000年の歴史があり、それが伝統的に継承されてきたと言われている。

果たしてこのツボって本当なのか？ 正しいのか？ 正確なのか？
これは本当に正しいのだろうか？

実は、このOリングの大村恵昭先生は、ニューヨークの病院で人生をかけてこの問題を研究したのだ*⁸。この大村先生は一般には

*⁸ 「武田鉄矢の「今朝の三枚おろし」：「脳の中の身体の地図」「脳の中に自分がいる」→逆もある「体の外に自分がいる」！？」；
<https://quasimoto2.exblog.jp/237134345/>

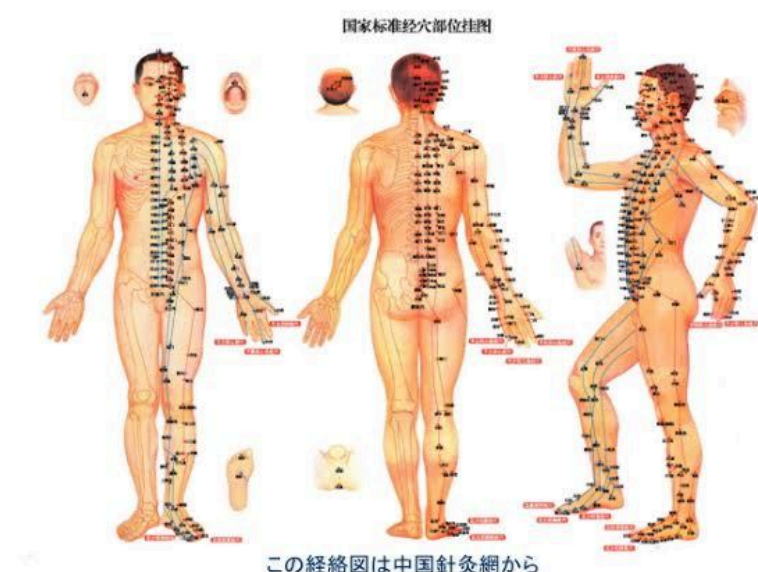


図 9.5 中国 3000 年のツボ
中国 鍼灸 網

<https://www.ou-hari.com/keiraku.html>

Oリングで知られている。しかし、実は人体のマップ作りの方が重要で、ニューヨークでさまざまな患者や死体を研究して、ほぼ完璧な人体ツボマップを作成したのだ。

それは、腹のツボ、舌のツボ、ありとあらゆる場所のツボがある。

その長年の成果で、この大村先生は、人の顔を見ただけで、その人の寿命が後何年あるかまで言い当てられる極意まで編み出した。

もうちょうど14年前になる。京都大学の湯川秀樹生誕100年記念の国際学会があったのだ。そこで私は、自分の論文と同僚の論文をポスターセッションで公表する機会に恵まれた。この時、私ははじめてこの大村先生に会って、いろいろ聞くことができたのだ。むろん、それまで私はこんな人がいるのかまったく知らなかった。しかしながら、その国際学会では、講演者や参加者は、会場も京大

のホテル、宿泊も同じホテル、食事もしっしょ、3日間ずっと寝食ともにする。こういうタイプのものだった。それで、私は朝から大村先生とっしょに朝食をとりながら、いろいろ聞くことができたのだ。

そして、こんな会話（だいたいの雰囲気だが）をしてくれた。

O「お前にはわからないだろうが、あそこの博士、あの方はたぶんあと2年の寿命だな」

I「どうして分かるんですか？」

O「顔のこの辺に黒ずみがあるだろ。あれは肝臓にかなりの問題がある証拠」

I「その人に言ったんですか？」

O「昨日、『あなたには肝臓に問題があるからすぐに病院へ行った方がいいよ』といたら、すごい剣幕で怒られたんだよ」

I「へ〜、二度と自分の前に顔を見せるなと言われたんですか」

とまあ、こんな会話だ。そして、ついでに

I「じゃあ、私はどうでしょうか？」

静かにじっと私の顔と体を見つめて

O「本当に言ってもいいの？」

I「はい、大丈夫です」

O「あんたの場合は、心臓に問題がある。左心房が悪いな」

I「どうしてわかったんです？ 私はつい最近ジョギング中に脱水で心臓が変になっていまもまだ完全ではなかったんで

すよ」

このように、あっという間に当時の私の心臓の不具合を見事に当てたのだった。

前に書いたように、事実私はつい最近、左心房肥大が見つかった。つまり、それから14年後の今年になって、一過性の脳梗塞になった。この原因が心臓でできた血栓のせいだった。その時の心エコー検査で初めて左心房肥大が見つかったのだ。脳への血栓はたいい左心房肥大からくる。私にそれがああり、さまさまの事情が重なり、今回の軽い脳梗塞に繋がったのだ。

この大村先生が、その学界の時に、実際の人体マップを見せてくれたのだ。しかし、それは中国3000年のものとはかなり違っていたのだ。

このように、体の外の刺激は身体の内側の脳への刺激となる。それが脳内に人体図のようにマップされる。そうであるならば、当然、同じく体の外の刺激は身体の内側の内臓への刺激となる。それが良かれ悪しかれの作用をしたりしても当然なのだ。

そして、体の外の刺激からそのツボにハマった部分から、それに対応する体の内側の内臓を刺激することがある。だとすれば、逆に、脳内の人体図を刺激するために自分の脳内で想像する。こういうことから、逆に体の外から来た刺激であるかのように、自分の臓器や筋肉を刺激することもまた可能なのだ。

自分でできることなら、高周波の電磁波や電磁プラズマ（つまり、電磁波の縦波）でも可能だろう。

9.6 ロシア人の発明メタトロン



図 9.6 量子波動器メタトロン

<https://metatron-agency.com/lp/index.html>

<http://uenoiin.lolipop.jp/examine078.php>

<https://www.youtube.com/watch?v=8aZFsN-f5kM&t=148s>

メタトロンという代替医療機器を知っているだろうか？

最近、じわじわと我が国でも医師や個人の間で広まりつつある装置がある^{*9}。それが、ロシア生まれのメタトロン^{*10}という代替医

^{*9} メタトロンドットコム; <https://metatron-agency.com/lp/index.html>.

^{*10} メタトロンという言葉は、ユダヤ・キリスト・イスラム教の天使の名前；
<https://ja.wikipedia.org/wiki/メタトロン>.

療機器だ*¹¹*¹²*¹³。結構根の張る装置だ。しかし、非常にユニークな代替医療機器だ*¹⁴。

では、だれがこれを開発したのだろうか？

それは、ウラジーミル・イーゴレヴィチ・ネステロフ博士である。

メタトロンとは、ソ連時代の科学者によって開発された量子医療装置のようだ*¹⁵。旧ソ連時代にオムスクというシベリアの都市*¹⁶にあるオムスク医科大学の精神物理学実用研究所で研究された。当時は人体実験しても問題とされなかったようだ。それで、およそ100万人の人間（男女、年齢別、人種別、健康な人、病気の人など様々）と動植物や鉱物の周波数を取得しデータベース化した。それを元に莫大なデータベースを構築し、身体データと比較し、統計学的に現在の身体の状態を調べる。

全身の生体磁場エネルギーを読み取り、エントロピーの状態を客観的に測定する。波動測定器メタトロンは、当時のソ連が国策として作りあげた立派な医療機器なのだ。なぜなら、ロシア人宇宙飛行士がロシアの宇宙ステーション内で長期間滞在する実験を行う。そ

*¹¹ 「【メタトロン】量子波動装置「メタトロン」と大村恵昭先生の「Oリングテスト」との相似性→俺「これからは、古典医学から量子医学へ大転換が起こる予感！」」；<https://quasimoto3.exblog.jp/240935768/>.

*¹² METATRON(メタトロン)；<http://uenoiin.lolipop.jp/examine078.php>

*¹³ 【横浜ロングライフ】メタトロン SAKURA テレビ東京 山田孝之；<https://www.youtube.com/watch?v=8aZFsN-f5kM&t=148s>.

*¹⁴ 内海聡/内藤眞禮生/吉野敏明/吉川忠久著「セルフチェック&セルフヒーリング 量子波動器【メタトロン】のすべて 未来医療はすでにここまで来た!」（ヒカルランド、2017年）.

*¹⁵ <https://metatron-jp.com>.

*¹⁶ <https://ja.wikipedia.org/wiki/オムスク>.



図 9.7 ウラジーミル・イーゴレヴィチ・ネステロフ博士
生年月日：1955年4月12日 ソヴィエト連邦（現ロシア）
オムスク市生学歴：1972～1978年 M・I・カリーニ
ン記念国立オムスク医科大学. 専門：予防医学と保健医療管理.
国際非線形診断システムアカデミー会長, 医療技術科学アカデ
ミー正会員, 応用心理物理研究所（IPP）創立者, 国際医学雑誌
『NLS 診断法の実践的側面』編集長, NLS 診断用機器開発者.
非線形診断法分野での100件以上の学術論文の執筆者.
<https://ameblo.jp/lunapac/entry-11993980811.html>
METATRON - HARMONY OF LIFE (JAPAN)
<https://www.youtube.com/watch?v=9BkA3M8CQ68&t=78s>
<https://metatron-jp.com>.

の時の健康チェックに必要なだったからなのだ。

この装置の物理学的原理は、我が国の物理学では不明である。いわゆる波動を分析しない。トーション場、もしくは捻じれ場を分析するというのがのだ。

この「Torsion Field」はロシアで独自に研究されている量子エネルギー場である。「Zero Point Field」「Gauge field」「Higgs field」とほぼ同じ概念になる。アメリカや EU の重力場の研究は曲がった時空を対象としているが、ロシアでは捻じれた時空（非対称場）の重力場を対象とする。これは、第 6 章 6.7.4 でみた、早坂秀雄博士の反重力の研究で出てくる、対称性の破れ場と同じものだ。

そこには以下のような説明がある^{*17}。

※ 以下、V. I. ネストロフ講義より抜粋

量子エントロピー理論から以下の結論が導かれる：1. いかなる物体も、それが生体であれ、非生命的なものであれ、周囲環境からの情報を吸収しながら、構造組織化のレベルを上昇させる。すなわち、より複雑に組織され、より安定化する。

2. 情報を失うあらゆる物体は同時にその構造組織化のレベルを下げ、安定性を下げ、より非組織的になる。生体に関しては、構造組織化（情報）の喪失は、その組織体の適応反応の低下、疾病の発展、そして最終的にはその組織体の死に表現される。

3. 情報を失うあらゆる崩壊過程にある物体の周辺には常に、背景的な情報ノイズが存在する。生体の崩壊が激しいほど、より急激に病気が進行し、その周辺の背景的情報ノイズのレベルが上昇する。このように、背景ノイズの周波数性質を計測することで、被験体のどのような組織がより大きな崩壊と変化を受けているかを判断することができる。

^{*17} <https://metatron-jp.com>.

現在では、ヨーロッパやアジアなどの約40の国と地域で医療機器として使用されているという。医療業界だけでなく、宇宙飛行士やワールドフランスのスポーツ選手の管理などでも使用されているのだ。

身体の約800か所の状況を分析することができる。以下のような予測が可能である。

- ・ 現在の体の状態
- ・ どんな食べ物が自分に合っていて、相性がいいか
- ・ どんな植物やハーブやアロマが自分の体質に合っているか
- ・ どんな薬やどんなホメオパシーレメディが自分の体質に合っているか
- ・ 将来や近い未来にどんな病気になりやすそうか

つまり、量子波動器メタトロンは病気を未然に防ぎ、一人一人が健康な身体を作ることを目的として造られた機械なのだ。

量子波動器メタトロンは、ロシアの宇宙ステーションの宇宙飛行士用に作られた。ここが実に魅力的だ。

この装置は、受信機としての診断だけではなく、送信機としての治療もできる。まさに、これはロシア版のエリア51の機械と言えるだろう。エリア51のこのテーマの指揮官が、エドワード・テラー博士だった。一方、ロシアのこの部門の指揮官が、ウラジーミル・イーゴレヴィチ・ネステロフ博士だったというわけだ。

このメタトロンという装置は、量子スピンのねじれ場との共振を基に、ウィルスや最近や脳細胞、あらゆるものとの共振周波数をデータベース化したわけだ。まさにニコラ・テスラの行った高周波高電圧の人体への応用の現代版と言えるだろう。

9.7 日本人の発明 AWG ORIGIN



図 9.8 段階的波動電子発生装置 (Arbitrary Waveform Generator)

<http://www.asiascorp.com>

<https://minnashiawase-clinic.com/guide/integrative/about-awg/>.

一方、AWG という代替医療装置をご存知だろうか？

AWG とは、Arbitrary Waveform Generator(段階的波動電子発生装置) の略である^{*18}。最近では、QPA とは、Quasi-particle accelerator(準粒子加速器) という言い方も現れたようだ^{*19}。

^{*18} AWG ORIGIN(R) 治療; <https://minnashiawase-clinic.com/guide/integrative/about-awg/>.

^{*19} 保江邦夫/小林正学著「量子医学の誕生/がんや新型ウィルス感染症に対する新物理療法への誘い」(海鳴社, 2020年).

この装置AWG (R) は、1971 年より40数年の歳月を掛けて開発完成された医療機器だ。米国・カナダ・日本の分子生物学者・医師・獣医師・物理学者・科学者・細菌学者の7名が中心になった。彼らはアメリカでチームを結成した。そして、最初は牛の人工授精の研究からスタートした。その後、23人の医師・大学教授・医学・薬学者の協力を得て、ついに完成されたのだ。メタトロンが東側ロシアの量子医療装置だとすれば、AWG はいわば西側連合軍の量子医療装置と言えるだろう。

このリーダーが獣医の松浦優之博士だった。

今から35年前の1971年、世界最大級のバイオ・テクノロジー会社シーメックス・カナダ社に留学していた松浦は、哺乳動物のクローン技術を学ぶ過程で「流産の原因にウイルスやバクテリアが介在している」ことに気づいて研究を進めた結果、それをエレクトロン（10-12 ミクロン電子）を用いて物理的に殺滅できることを突き止めた。と同時に、知人たちからロイアル・レイモンド・ライフに関する話も聞き、ぜひライフの技術を再現してみたいと思うようになった。というのも、松浦は仲の良かった弟を白血病で亡くしたばかりだったし、息子も中皮腫で苦しんできたために、獣医としての研究よりも人間の病気治療技術を開発する方が重要と考えたからだった。白血病で亡くなった弟は、当時200倍という難関の千葉大学医学部に見事入学して医師を志したものの、結局その志を果たすことなく亡くなった。その弟の遺志を引き継ぐためにも、レイモンド・ライフの遺業をぜひ完成させたいと決意したのである。

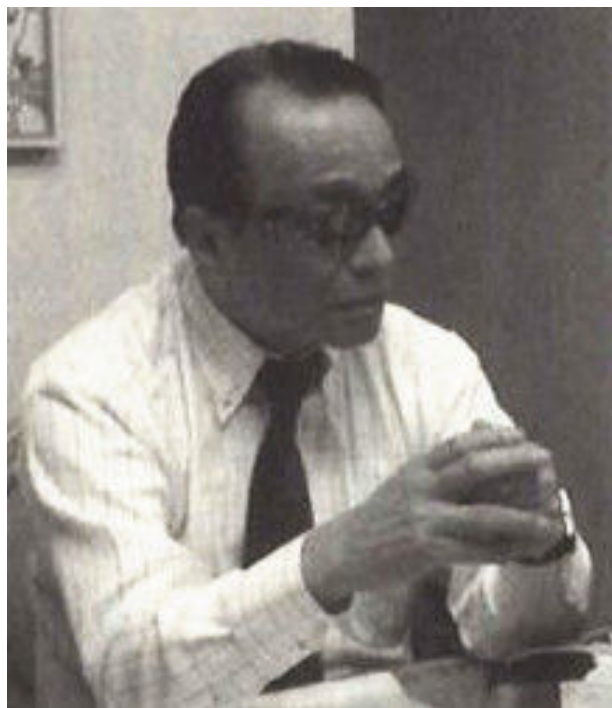


図 9.9 松 浦 優 之 博 士
1936 年生まれ，静岡県島田市．麻布獣医大学卒業
後，カナダ・ゲルフ大学に留学．ビッグマン教授研
究チームにて家畜着床率の高い人工授精方法を研究
<https://minnashiawase-clinic.com/guide/integrative/about-awg/>.

ライフの偉業とは、独自に開発した顕微鏡を使って生体や血液の中に微小な有機体を発見したことと、「細菌は体の状態に応じて無害なものから致死性の病原菌に変化する。そしてその病原菌は特定の周波数の光で即座に殺すことができる」という画期的な発見だった。しかもライフはその効果をガン、結核、腸チフス、ハンセン病、口蹄病などで確認して

いた。

ちなみに1934年には16人のガン患者を100%完治させ、その成果が『ネイチャー』に掲載されたりもした。これらの資料により、ライフが60ヘルツの周波数を使ってガン細胞を殺滅する成果を上げたことは分かったものの、その程度の情報だけではどうしようもない。そこで松浦は、レイモンド・ライフの試みを、独自に最初からやってみようと思い立ったのである。

幸いにも松浦には海外に頼もしい研究仲間たちがいたし、獣医だったから顕微鏡などの研究設備もそろっており、たやすく家畜の精子を手に入れることもできた。そこで松浦らは、顕微鏡で精子を覗きながら丹念に1～10000ヘルツの周波数をかけていくという、実に根気の要る実験を繰り返して続けた。

その結果、精子などの生命体にどの周波数が有用であり、どの周波数が有害であるかが判明してきたため、さらに結核菌や大腸菌などを使って周波数と生命活動の関係を研究し続けた。そしてなんと25年にもわたる実験研究の果てに、10000種の周波数の中から69種類の、生命体に有用で画期的な周波数を特定することができたのであった。

精子や大腸菌などによる実験研究が終わったあと、松浦は続いて動物実験に着手した。しかしそれだけではまだ完成とは言えず、どうしても人間に対する効果を確認めなければならなかった。そこで自分自身で試したのはいうまでもなく、その技術に感心を持つ周辺の人々にも参加してもらおうと、松浦は浜松で「健康クラブ」を結成して、約3000人

の協力者にその「電子照射機＝AWG (Arbitray Waveform Generator)」を使ってもらったのである。

そんなある日、起き上がることも話すこともできず、意識も朦朧状態の「余命1週間」と宣告されたガン患者がやってきた。ところがその人が1週間後にはなんと立上がって歩き出し、まもなく稼業である米屋の仕事に復帰して、重い米袋をかついで働きだした。しかも「お陰で末期ガンが治った」と周囲の人々に言いふらしてしまったものだから、噂が噂を呼び、その翌日からはガン患者が次々と健康クラブに集まってきた。敬虔なクリスチャンである松浦は、病気で苦しんで訪ねてくる人々に無料で電子照射機を提供していたから、健康クラブには日増しに訪問者が増え続け、一日に380名ものガン患者がやってくる日もあれば、外国から松浦を訪ねてやってくるガン患者まで出てくるようになった。

そんななか、患者の一人がそこにいたみんなに提案した。「電子照射機を使えば電気代もかかるし、私たちをお世話してくれるパートさんに十数人も来てもらっているのだから、せめて実費に相当する3000円くらいはカンパしようじゃないか」と。

それ以来、部屋の一角に穴を開けたダンボール箱が置かれるようになり、それぞれが自発的にカンパするのに任せるようになった。そして気がついたら、松浦が開発した電子照射機は、なんと5000人以上ものガン患者や難病患者たちを救っていたのである。

しかし、しばらくして問題が起こった。電子照射機＝AWGに自信を得た松浦は、厚生労働省に医療治療器の申請を

し、世界138カ国に特許申請をしたそのあとで、医師法違反と薬事法違反の容疑をかけられてしまったのである。

1998年9月のある日、松浦の健康クラブに突然30人ほどの警官が押し入ってきて、松浦を夜遅くまで問い詰めたあげく、そこにあった300台近くの電子照射機と大量の実験データや資料などを10トントラック丸々2台分押収していった。その内250台の電子照射機は、チェルノブイリ原発事故の影響で白血病に苦しんでいるカザフスタンの子供たちにプレゼントするために、松浦が少しずつ作り溜めて用意していたものだった。

また資料や機械類の押収に加えて松浦自身も連行され、2ヶ月近くの取り調べを受けた。しかも押収された300台近くの電子照射機と大量の資料はいつのまにか焼却廃棄処分にされてしまい、再び松浦の元に戻ってくることはなかった。かつてレイモンド・ライフに起こったことが、そのまま松浦にも起こったのである。

その結果、長い歳月を費やして開発した電子照射機は、普及の寸前でブレーキがかけられてしまったが、その後富山薬科大学や韓国のハンソ大学などで追試が行われてその有効性が立証され、やがて厚生労働省認可の医療機器として承認された。

さらに世界138カ国への特許申請も済み、すでにアメリカ、ロシア、カナダ、中国、EU、メキシコ、韓国、香港など12ヶ国で特許を取得した。また松浦は韓国のハンソ大学から国際名誉教授第1号の称号を与えられ、ますます研究に磨きをかけている。しかし日本のガン医療は相変わらず古典

物理学的な世界で「切る・殺す・焼く」に終始しており、最先端の量子理論とソマチッド理論に基づいて開発した松浦の治癒技術を、なおも封印し続けようとしているかのようだ。

医師を志していた弟を白血病で亡くした松浦は、実は千島学説の学徒でもあり、千島が亡くなるまでの十数年、千島喜久男の講演や研究会に顔を出しては「腸造血説」などに深い共感を表していた。

その後千島学説の「ウイルスやバクテリアの自然発生説」を裏付けるソマチッド理論がネサンによって発表されるや、自らも夢中になって顕微鏡でソマチッドを観察した。そして、ヒトの生体内には100兆個ほどのソマチッドがあり、それは生体内の微小コンデンサーとして働いていて、ソマチッドが16個の触手を伸ばして絶えず電子を要求していることを確認した。

ソマチッドは人体内環境に異変が起こるとさまざまな形に変化していくが、松浦が開発した電子照射機を作用させると、全てのソマチッドが健康状態に戻ってしまう。早い話、ソマチッドのエサはある特定の電子であり、電子がソマチッドを充電させることが分かってきたのである。実際、松浦の電子照射機は、数多くの奇跡的な治癒を引き起こしてきた。すでに紹介したように、松浦が医師法違反、薬事法違反に問われるきっかけを作った「余命一週間」のガン患者が一週間後には歩き出して治癒してしまった例を筆頭に、その後も5000人を越えるガン患者や難病患者たちがすっかり治癒してしまったのである。

ロサンゼルスに住む国際弁護士ヘンリー・コウダさんもそ

の一人で、2001年10月に末期の大腸ガンで「余命1ヶ月」と診断されたコウダさんは、アメリカの4つの有名病院を回ったがすべての病院で希望なしと診断され、日本にもやってきて国立がんセンター初め4つの信頼できる病院を訪ねたが、診断結果はみな同じだった。

ところがひょんなある出会いから松浦を知り、浜松に出向いて電子照射機を使ってみたところ、希望が出てきたこともあって電子照射機を借りてアメリカに帰った。すると約2ヶ月後の2002年4月にはガンがほとんど消滅し、9月の検査ではアメリカの病院から「完治」と診断されたのである。

なぜガンが消えてしまったのか。その理由を松浦は、次のように説明する。

ガンなどの病的細胞組織の表面はプラスイオン帯電物質ですから、そこにある特定の周波数を持つマイナスイオン電子波動を照射しますと、ガン細胞が破壊的な共振作用を引き起こして自滅してしまいます。マイナスイオン電子の大きさは原子核の1兆分の1センチ（ 10^{-12} cm）の超微粒子で、これは自然界で最も小さな粒子です。マイナスイオン電子波動によって病的細胞が次々と破壊されていきますと、免疫力が一気に高くなり、そこから自然治癒力が働き出していきます。ですから病的な症状を治癒してくれるのはあくまでもその人自身が本来持つ自然治癒力であって、電子照射機はその治癒力の威力が発揮されるための条件を作りだすにすぎません。その意味で、これは「治療器」というよりは、人体を「自然治癒」へと導くための、最有力な装置と言ったほうがいいかもしれませんね。

人間の体は本来NK細胞などの免疫力によってガンの発症を防止しているが、免疫力が弱まる時、そこからガンが急成長していく。そのため現代医学では抗ガン剤や放射線を使ってガン細胞を殺そうとするが、それは同時に人体の免疫力も弱めてしまう。これに対して松浦の「AWG治療」は、マイナスイオン電子波動をガン細胞に作用させてガン細胞を自滅・自壊へと誘い、さらに免疫力を高めてガンと免疫力の力関係を一気に逆転させてしまう。そこから先はその患者が持つ自然治癒力の領域の出来事であり、手術をせず、抗ガン剤も放射線も全く使わずに、ガンを克服する全く新しい治癒への道を切り開いたのである。

こうして自然治癒力を驚異的に高めてくれる「人に優しい病気治癒」の器機「AWG」が完成した。それは「無痛・即効性・累積効果」があり「副作用なし・原因直接療法・耐性菌ができない・生体内ウィルスを殺滅・体内免疫を急激に上昇させる」という画期的なものだった。松浦が開発したこの「AWG」はその先達、ロイアル・レイモンド・ライフとガストン・ネサンの理論と技術を引き継ぎながらも、それらよりはるかに進化したものだった。そしてこの技術は量子の科学に立つものである。

ドイツの数学者ウォルター・シェンプは量子ホログラフィーを利用して進化型MRI（核磁気共振映像技術）を開発して医療分野で大きな貢献を成し遂げたが、松浦博士も量子論に基づいて「AWG」を開発し、21世紀医療に重要な貢献をする道を踏み出したのである。松浦博士のAWGは、ある意味で千島学説の「気血動の調和」を、即座に一気にもた

らしてくれるものとも言えそうだ。というのも、マイナスイオン電子波動の照射を受けると、まず気分がリラックスし、血液循環が良くなって、血液やリンパ液中の病的なものが浄化される。そしてそこから自然治癒力が働き出していくからである。

そしてそれはいま、すでに 50 名以上の医師たちによって臨床で使われており、特に海外では非常に大きな反響を呼んでいる。ただ日本国内では、かつてのライフやネサンと同じようにいまなお「封殺的な扱い」を受けているために、なかなかポピュラーなものとはなりえない。しかしぼくは幸いにも、本書の執筆を通じて松浦博士に行き着くことができた。ソマチッド理論の情報をリサーチしていたときに妻がインターネットでAWGのことを知り、そこからマスメディアが封印してしまったこの量子論的治療器（AWG）を知ることができたのである。そしてぼく自身、自分のソマチッドを暗視野顕微鏡で観察することができたのである。

一万倍の暗視野顕微鏡で血液を観察すると、ソマチッドの動きはいうまでもなく、そこに神秘なくらいの生命のドラマを見ることができる。しかも一定の周波数をかけたその後で再び顕微鏡を覗けば、その「ビフォーアフターの変化」が自分の目で明らかに観察できるのだ。

(転載元、ジャーナリスト稲田芳弘氏のサイト)

これまでの実施例から、その有効性は明らかなのだ。しかし、製作者は物理学者ではない。したがって、この装置の原理は以下のように説明された。

AWG (R) は、2枚または4枚のパッドを身体に貼って1秒間に約6京2500兆個の素粒子（電子・エレクトロン）の束を照射する。1～10KHzの間の、身体に有効な69種類の周波数(Hz)を組み合わせで照射し、400を越える症状・病気に対応できる機械だ。電子は体内のエネルギー産生には必須であり、また体の還元（若返り）には必須の物質なのだ。

- ・脳内ホルモン（とくに幸せホルモンであるオキシトシン、ドーパミン、セロトニン）の分泌を促進
- ・生体細胞・組織細胞の活性化
- ・免疫改善作用
- ・血液の質改善

しかしながら、数枚のパッドで電子を1秒間に 6×10^{16} 個も照射するのは、電気工学における電流という意味で言えば不可能だ。だから、これはもっと別のプロセスで行われていると考えられる。これについては、販売元からの説明には、保江邦夫博士の「バイオポラリトン」による説明がなされている^{*20}。それによれば、以下のような説明になる。

生体細胞結合水ネットワークに振動周波数が共鳴する微弱電流が流れ、バイオポラリトンが発生、コヒーレント共鳴増殖します。

しかしながら、保江邦夫博士の理論は従来の素粒子論の標準理論を

^{*20} 保江邦夫/小林正学著「量子医学の誕生/がんや新型ウィルス感染症に対する新物理療法への誘い」(海鳴社, 2020年).

基盤にしている。そこで基本にする電磁場は横波である。つまり、ヘルツ波である。だから、このゲージ場理論は横波の電磁波と電子の相互作用を考慮した理論にすぎない。

ポラリトンという概念は、固体物理学のイオン結晶の中で誕生した^{*21}。イオン結晶中のポラリトン、物質の誘電分極波（光学フォノン）の横波と電磁波の横波（フォトン）とが結合した状態のことだ。だから、これ自体は横波にすぎない^{*22}。横波のポラリトンだからこそ、ポラリトンのエネルギーが波数に比例し、ゼロのエネルギーを作れる。

これに対して、縦波の誘電分極波（光学フォノン）はプラズマに近い。これはゼロではないエネルギーを持つ。いわばプラズマ周波数のようなものだ。これと横波の電磁波は結合しない。

はたして AWG の原理が、保江邦夫博士の理論通りかどうか？

これは今後の研究を待つほかないだろう。私としてはそれが現象の説明に成功していることを期待したい。しかし、私の観点からは、この本の趣旨であるニコラ・テスラの精神に戻って考えたい。

この AWG は低周波から高周波電流を利用する。このことから、この装置は生体中ではバイオプラズマを使っていると考えられる。だから、むずかしい素粒子論の生命体への応用から理解するというより、むしろ昔のニコラ・テスラの観点から理解した方が分かりやすいと思う。

しかしながら、このバイオプラズマは、これまでの通常の既成の物理学の考え方では理解不能だ。なぜなら、第3章から第6章に至

^{*21} Charles Kittel, *Introduction to Solid State Physics*, 8th ed., (John Wiley&Sons, Inc., NY, 2004).

^{*22} <https://ja.wikipedia.org/wiki/ポラリトン>

るニコラ・テスラのテクノロジーのところで述べたように、電磁波の縦波というのはプラズマ (誘電分極振動) として実在する。しかし、プラズマを普通の電磁気学では電磁波の一部とは考えないからだ。

第1章や第4章で述べたように、ニコラ・テスラはウォーデンクリフタワーを用いて、地球に電磁プラズマの縦波を送った。それにより、地球の表面上どこにいてもそのエネルギーを取り出せるようにしようとした。この場合は、テスラは地球の地下にテスラ波を送り、地球全体を活性化させることを考えた。

この AWG は、これと同じことを身体に行っているように見えるのだ。AWG は、人体に電磁振動を与え、人体全体を活性化させる。つまり、量子医療者にとっての AWG は、ニコラ・テスラにとってのウォーデンクリフタワーに対応しているのだ。このように考えると、比較的分かりやすい。実に自然な方法と言えるだろう。

この方法なら、周波数を変えれば、人体内の色々の部分と共振させることが可能になる。人体に感染したウィルスや細菌や寄生虫、あるいは癌細胞などにも共振させて破壊することは可能に違いない。これもニコラ・テスラが地球に対して無線エネルギー送電で行ったことと同じである。このような観点で考えると、ロシアのメタトロン、日本の AWG(QPA) とともに、ニコラ・テスラの思想圏にある装置といえるのだ。

9.8 新型コロナを破壊する深紫外線 LED

深紫外線発光ダイオード (LED) というものを知っているだろうか？

もし新型コロナウイルスや毒性の強いウィルスを光線のようなものでクリーン化できたとしたらどうだろうか？

通常の科学者や生物学者は、病気は生命現象だから、ウィルスの退治はワクチンや薬で行うと考える。だから、彼らはワクチン開発や特効薬開発を考える。これが、普通の医者や科学者の考え方だ。

しかしながら、私は物理学者だから、新型コロナウイルスが登場した瞬間に次のように考えた。

コロナウィルスを電磁共鳴させて完全破壊したい！

もっと別の物理学的方法で COVID-19 をエレガントに退治したい。つまり、ウィルスをその固有振動数と共振させて「破壊すること。特に、新型コロナウイルス (COVID-19) を共振で破壊すること。こういう方法が絶対にあると考えるわけだ。

その場合の秘訣はなんだろうか？

これこそ新型コロナウイルスの共振周波数を見つけることなのだ。この固有振動数が分かれば、あとはそれに共振させる光線を作れば良い。そうすれば、光線銃を照射すれば、その光を浴びた空間が一気に無ウィルス化されるのだ。

実は、ここ阿南の青色発光ダイオードの発明を行った日亜化学に私の著書^{*23*24*25}のファンが2人いた。2019年の暮れ、彼らが

^{*23} 井口和基著「ニコラ・テスラが本当に伝えたかった宇宙のしくみ (上) 忘れられたフリーエネルギーのシンプルな原理」(ヒカルランド, 2013年)/「ニコラ・テスラが本当に伝えたかった宇宙のしくみ (下) 地震予測と UFO 飛行原理のファイナルアンサー」(ヒカルランド, 2013年)

^{*24} 保江邦夫/井口和基著「物理で語り尽くす UFO・あの世・神様の世界 アインシュタイン、マックスウェル、ディラック、シュレーディンガーさえも超えて」(ヒカルランド, 2015年).

^{*25} ニコラ・テスラ著/井口和基訳「未来テクノロジーの設計図 ニコラ・テスラ

私に一度会いたいらしいと、妻の知人を通して知らされた。それで OK をして、一度彼らに会いに行ったことがある。場所はその知人の経営する農業ファーム兼ケーキ屋さんだ。そのお店の離れの座敷で、ケーキを食べながら 1 時間ほど、その二人と話したのだ。彼らはあくまで私の 1 ファンの個人として会ったにすぎない。だから、この時はニコラ・テスラや UFO 関係の話で大いに盛り上がった。

しばらくして、2020 年の 2 月頃、新型コロナウイルスの流行がそろそろ深刻化し始めて来た頃、またその 2 人と会う機会に恵まれた。今度は、阿南市内のモスバーガー店だ。その時に、私はその時まで、新型コロナウイルスのスパイクタンパク質を破壊できる光の周波数が紫色の付近にあることの調べがついていた。それで、彼らにその参考論文資料を持っていったのだ。そして、新型コロナウイルスを破壊できる波長が紫色付近の波長から紫外線の領域までの波長にある。だから、日亜でそういう発光ダイオード (LED) を作ったらどうかと提案したのだ。

昔、銭湯や温泉の着替え室に髪の毛の串を入れて除菌するボックスがあっただろう。あるいは、喫茶店のお手拭きを入れる除菌ボックスだ。こういったものには、紫外線が使われた。当時は紫外線蛍光灯が使われた。紫外線が細菌を殺すことはだいぶ昔から分かっているのだ。

だから、これと同じように、新型コロナ COVID-19 の場合も、このウィルスを共振破壊する特定の周波数、つまり特定の波長があるはずなのだ^{*26}。

の [完全技術] 解説書」(ヒカルランド, 2015 年). 41 ページ.

^{*26} 光の場合、波長 λ と周波数 ν との間には反比例の関係 $\lambda\nu = c$ がある. c は光速度秒速約 30 万キロ m だ.

この2020年2～3月頃には、私はアメリカの研究者にウィルスを光で殺すことを研究しているものがあるということを見つけていた。そして、その特定の波長は紫に近い紫外線付近の領域にあることを知っていた。その関連論文を探し出して、彼らに提供したのだった。

ところが、2度めであって以来まったくご無沙汰、返答がない。それで、ちょっと私はしびれを切らして、これを私のブログにメモしたのだった。これが、2020年4月24日の記事だ^{*27}。

その後もまったく日亜の2人から応答がないので、メールで問い合わせたりしていた。日亜化学は競争の激しいハイテク企業だ。しかもここ阿南にはめずらしい世界企業。だから、社外の人間との交流メールは基本禁止事項だった。それで、彼らも微妙な立場で、沈黙を貫いていたようだ。

すると、2020年の6月15日になって、次の記事が新聞に公表されたのだ^{*28}。私のアイデアと同じようなものが、ちょっと前からアメリカの研究者により突き止められていたのだ。これは紫外線の領域だった。この周波数が222 nm あたりだったのだ。

そして、すでに試作品のLED はできていた。このLED は日本のウシオ電気とコロンビア大学との共同開発のものだ。これはすでに実現しているのだ！

にもかかわらず、私が日亜化学の2人にあえて以来、何らの進展

^{*27} 【バイオハザード】「アビガン発明者」の白木先生の緊急寄稿と、俺が発明したいもの「新型コロナウイルスをやっつける光線銃」；
<https://quasimoto3.exblog.jp/240263496/>.

^{*28} 数分の照射で新型コロナを不活化、人に無害な 222nm 紫外線が実用化へ；
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/04156/>.



図 9.10 深 紫 外 LED

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/04156/>.

や情報がない。それで、2020年7月16日に私はこんな記事を私のブログにメモしていたというわけだ*²⁹。

そんなわけで、やっぱりあの話は没になったのかな？ と、私は心配していたというわけだ。というより、諦めてもう忘れかけていた。

ところが、そんな2020年の年末の12月18日になって、やっと日亜化学の対新型コロナ用のLEDの話が徳島新聞でニュース報道されたのだ*³⁰。これは、徳島県阿南市の日亜化学工業と徳島大学工学部のLED研究所で開発されたLEDだった。すでに日

*²⁹ 【222】666が5Gでマインドコントロールだとすれば、
222は1,350.416478Tで新型コロナをコントロールする！？；
<https://quasimoto3.exblog.jp/240474486/>.

*³⁰ <https://quasimoto3.exblog.jp/240751437/>

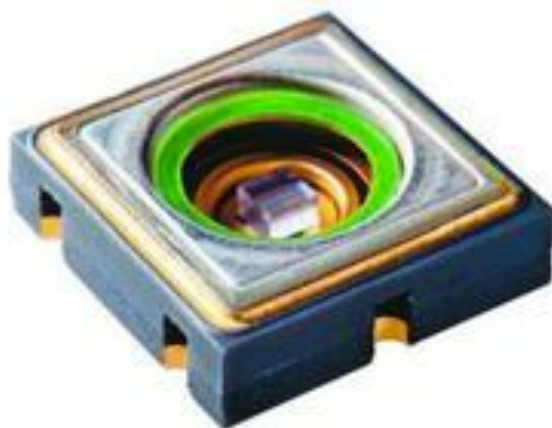


図 9.11 深 紫 外 LED

<http://www.asiascorp.com>

<https://www.topics.or.jp/articles/-/463126>.

亜化学はこの素子の量産体制に入っている^{*31}。この LED は、徳島大学の女性研究者が、新型コロナウイルスの共振周波数を突き止めた。この周波数は、ウシオ電気のものとはすこし異なるが、紫外線領域にあることは同じである。

それで、私は嬉しくなり、その日のうちに今度はブログにこれをメモしたのだ^{*32}。

ところで、LED は光学素子だ。光を使う。光は横波の電磁波だ。この場合は、光の届かない場所ができる。だから、一気に除菌できるにしても、影の部分には無力だ。これが、ヘルツ波の弱点だ。

ニコラ・テスラは無線エネルギー送電という地球規模のマクロレベルで行った。その時に縦波のテスラ波と横波のヘルツ波の違いが

^{*31} 新型コロナ 99・99% 不活化 日亜化学工業が深紫外 LED 開発 実用化へ量産体制整備; <https://www.topics.or.jp/articles/-/463126>.

^{*32} 【朗報】日亜化学工業がついにやりよった！ →俺のアイデアが活きたのか！？信じる信じないはあんたのマスク次第！？ ; <https://quasimoto3.exblog.jp/240751437/>

現れた。ヘルツ波は影ができる。ヘルツ波は、ある程度は回折現象で回り込むことができる。しかしながら、必ず電波の届かない場所ができるのだ。これと同じことが、ミクロレベルのウィルスの除去においても現れたということなのだ。

したがって、ヘルツやマルコーニの横波の側に立つものが、ウシオ電機や日亜化学の LED の方になる。一方、ニコラ・テスラの側に立つものが、O リングテストやメタトロンや AWG(PQA) の方になる。そういうことになるわけだ。

大村恵昭先生の O リングテストは、実際に右手で患者の患部を触り、左手に特定の物質を触ることで、その周波数を特定しようとする手法だ。ロシアのメタトロンは、すでに物質や生命体などの固有周波数のデータベースを構築し利用している。日本の AWG にも、そういうデータベースがある。深紫外線 LED は 222 nm の波長付近の深紫外線フォトンで新型コロナウイルスの固有振動数と共振させる。

そして、これらの周波数を治療にも使うことができる。問題の患部の固有周波数を見つけ、それと共振させることで患部を治療していく。これらはすべて同じ原理を基にしていると言えるのだ。そういう意味では、すべて同じ思想圏のテクノロジーである。これは、かつてニコラ・テスラがウィルスや細胞や脳や人体のパーツやありとあらゆる物質の固有周波数を探しまくったように、ニコラ・テスラがずっと昔に考えたことと全く同じことなのだ。

これからは、こういう装置を病院で治療を施してもらうのではなく、いつも自分の家や自分の身につけてできる時代が来そうだ。スマートウォッチのようにして身体の異常部分を検知し、必要なら共振させて治療してしまう。家に帰れば、夜ぐっすり眠っているうち

に、身体が悪いものを治癒してしまう。

そういうものができそうな予感がするのではないか？

9.9 メドベッド

さて、メドベッドという言葉聞いたことがあるだろうか？

簡単に言えば、万能医療ベッドのことだ。この上で眠っていれば、すべてが治癒される。そんな魔法のようなベッドのことを意味する。これもまた、デービッド・ウィルコックのコズミックディスクロージャーから端を発した言葉であり概念だ^{*33}。

トランプ大統領任期の時、米国に宇宙軍を作ったことは記憶に新しいだろう。しかしながら、遥かに昔から、すでに Secret space program というものが存在したのだ。これが、ピート・ピーターソン博士やエメリー・スミスやランディー・クラマーなどが所属した秘密の宇宙部隊のことなのだ。通称、地球防衛軍。

^{*33} あらゆる病気を治す量子ヒーリングベッド、メドベッドで驚異の医療革命！？ ; <https://yukawanet.com/archives/medbed20210308.html>.

9.9.1 ソーラーウォーデン

この地球防衛軍のスペース空母の設計者が、ウィリアム・トンプキンス博士だ*³⁴ *³⁵ *³⁶ *³⁷。このウィリアム・トンプキンス博士が設計した宇宙軍の軍艦。それが、ソーラーウォーデンだった。

この SSP の部隊に存在する秘密のベッド。それが、メドベッドらしいのだ*³⁸*³⁹。

このベッドには次の3種類ある。

- ・病気・ケガなどの診断および治療用ベッド
- ・体の一部を再生するベッド
- ・若返りのベッド

*³⁴ 「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！ ; <https://halto.keen-area.net/contents/?id=151>.

*³⁵ 動画：「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！【コズミック・ディスクロージャ Season5, Episode10】 ; https://www.youtube.com/watch?time_continue=1&v=PCI1NHihOQ0&feature=emb_title.

*³⁶ William Mills Tompkins, *Selected by Extraterrestrials: My life in the top secret world of UFOs, think-tanks and Nordic secretaries*, (CreateSpace Independent Publishing Platform, 2015).

*³⁷ William Mills Tompkins, *Selected by Extraterrestrials: My life in the top secret world of UFOs, think-tanks and Nordic secretaries 2*, (CreateSpace Independent Publishing Platform, 2020).

*³⁸ あらゆる病気を治す量子ヒーリングベッド、メドベッドで驚異の医療革命！？ ; <https://yukawanet.com/archives/medbed20210308.html>.

*³⁹ メドベッド:未来のテクノロジー ; <https://blog.goo.ne.jp/peaceacoustic/e/9dce30469bfd9080ec9f4da4bbb7cbd2>.

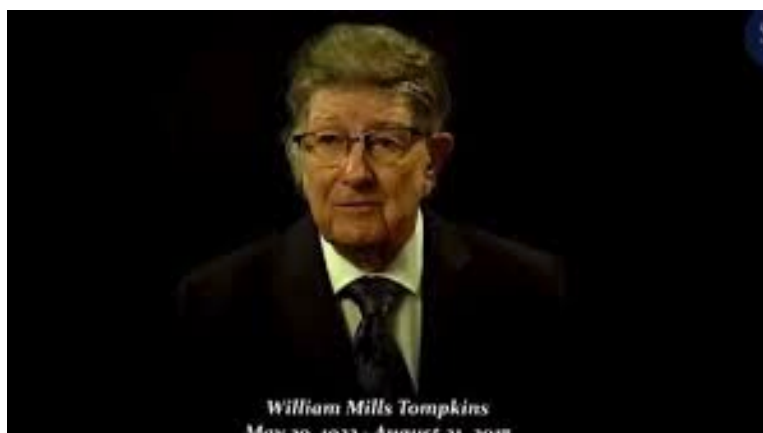


図 9.12 ウィリアム・ミルズ・トンプキンス博士 (93 歳)
「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！【コズミック・ディスクロージャ Season5, Episode10】
[https://www.youtube.com/watch?time_continue=1](https://www.youtube.com/watch?time_continue=1&v=PCI1NHihOQ0&feature=emb_title)
「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！
<https://halto.keen-area.net/contents/?id=151>

9.9.2 ニコラ・テスラのテクノロジーの蓄積

おそらく、米軍は 1947 年のロズウェル事件以来ずっとこれの研究を行ってきたのだ (第 7 章 7.4, 第 8 章 8.13)。なぜなら、1977 年にスタン・デヨ博士が現れた時、エドワード・テラーの指揮する研究グループの中に、このテーマの研究^{*40}があったからだ。それより 90 年近く前からのニコラ・テスラのテクノロジーの蓄積もある (第 4 章 4.7)。こういった成果を礎にメドベッドのテクノロ

^{*40} 電磁プラズマやバイオプラズマを使い皮膚や組織の再生回復ができる技術



図 9.13 ソーラーウォーデン船
「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！【コズミック・ディスクロージャ Season5, Episode10】
<https://3dwarehouse.sketchup.com/model/c235037a-0df1-412a-82b7-fdb3a14ff69e/Solar-Warden-Ship?hl=de>



図 9.14 メドベッド
「設計の天才」ウィリアム・トンプキンスが語る SSP の立ち上げ！【コズミック・ディスクロージャ Season5, Episode10】
<https://3dwarehouse.sketchup.com/model/c235037a-0df1-412a-82b7-fdb3a14ff69e/Solar-Warden-Ship?hl=de>

ジーが出来上がっていただろうと思う。さらに、わからない部分は共同研究している宇宙人に協力してもらえばよい。

いま現在多くの人たちは、この技術がそろそろ一般に開放されるのではないかな？

そう期待しているようだ。しかしながら、それもかなり怪しいと思う。なぜなら、宇宙人の円盤技術の開放と同じ問題が現れるからだ。

それは、仮にメドベッドのようなテクノロジーが一般に開放されたとしよう。すると、いまの医療システムが崩壊するだろう。なぜなら、ローテクノロジーがあるからこそ儲かっている業界なのだ。そこへいきなり医者いらずのハイテクがくれば、国の医療保険制度の崩壊を導くかもしれないわけだ。多くの人は一気に失業する。

果たして国家や大手製薬メーカーや医師会や看護学会がそれを簡単に許可するだろうか？

徐々にやってくれということになるのではないだろうか？

だから、結局、アメリカの最高レベルのメドベッドの開放を望むよりは、前セクションでみたように、Oリングテスト、メタトロン、AGW、医療用LEDなどから始めたほうが良いだろう。

9.10 なぜ社会は進化しないのか？

フリーエネルギーの場合もそう、反重力エンジンの場合もそう、メドベッドの場合もそう、そして金融の場合もそうだ。かつてのバックミンスター・フラーの建築の場合でもそうだ。結局同じ問題が起こるのだ。

旧テクノロジーと新テクノロジーの戦いになった場合、どちらが

強いのだろうか？

通常国家の場合、旧テクノロジーは社会システムに取り込まれ、それが法整備化されている。つまり、実際には旧テク、ローテクであっても、法整備のために、それが標準理論になる。

こうなると、新テクノロジーは代替テクの様相を帯びてしまう。新テクが真実の素晴らしいものであったとしても、一見、既存の理論と違うように見える。それで、社会に忠実な国民からは、新テクは邪道な危険極まる、なにかカルトのような感じになるわけだ。

そうなれば、旧テクと新テクの戦いになった場合、新テクには勝ち目がない。そうすると、人は簡単に改革できなくなるのだ。

1970年代にバックミンスター・フラーはすでにこのことに警鐘を鳴らしていた^{*41}。

なぜ建築が進歩しないのだろうか？

フラーは60年代までにすでに新しいタイプの家の建築の方法を提案していた。それは、家を自分の土地で建設するのではなく、その場に完成した家を運び入れるシステムだった。もう出来上がった家をヘリコプターで運ぶのだ。しかし、こういうスタイルの家はいまだ誕生していない。いまだにに自分が買った土地に大工が来て、そこで木を切り、カンナをかけ、柱を組んで家を建てる。

なぜだろうか？

それは、建築基準法がある。建築物はすべてが法律でがんじがらめになっているからだ。言い換えれば、建築を動かすものは人間だ

^{*41} R・バックミンスター・フラー著/梶川 泰司訳「クリティカル・パス—宇宙船地球号のデザインサイエンス革命」(白揚社, 新装版, 2007年); ジェイ・ボールドウィン 著/梶川泰司訳「バックミンスター・フラーの世界—21世紀エコロジー・デザインへの先駆」(美術出版社, 2001年)。

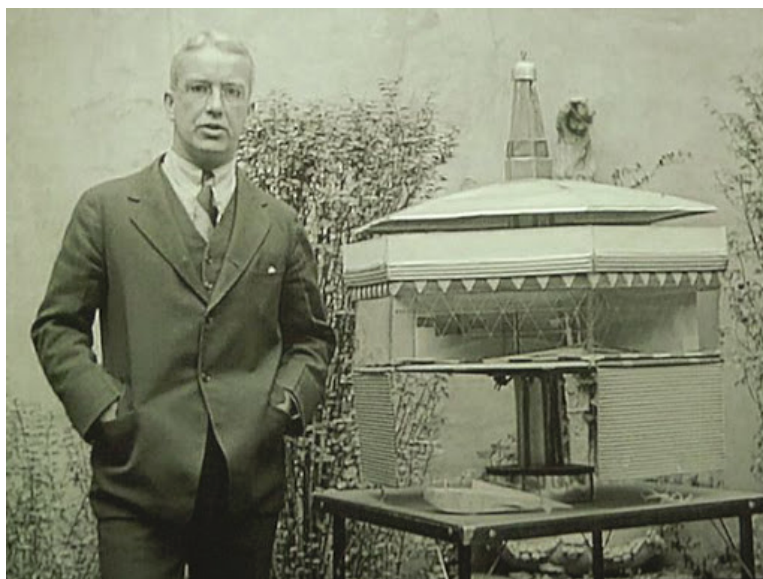


図 9.15 バックミンスター・フルーのダイマキシオンハウス
バックミンスター・フルー 宇宙との調和の意思
<http://zeitgeist.jp/zeitgeist/バックミンスターフルー-宇宙との調和の意思/>
<http://www.dwell.com/profiles/article/design-icon-8-works-buckminster-fuller>

からだ。人間に法規制が入る。そうなれば、人が作る建築には限界が起こる。

アメリカの方が法律が日本よりだいぶゆるい。だからアメリカの建築のほうが日本のものより革新的になるのだ。

一方、電子技術はなぜ進歩しやすいのか？

それは、電子は人に左右されない。電子は回路の中を自由に動き回る。電子回路基準法のような法律はない。だから、電子回路はどんどん進化した。あっという間にアナログの真空管から半導体へ、半導体かた LSI へ、電話からスマホへ進化した。

では、なぜラジオテレビは進化しないのか？

それは、ラジオには電波法ができています。テレビには放送法がある。これにより、社会制度上人に制限が加わる。だから、ラジオ業界やテレビ業界はできたときからまったく進歩がない。

そもそもなぜ電波法が誕生したのか？

それは、ニコラ・テスラの電波技術を阻止するために、アメリカの RCA が電波法を作ったのだ。

この世界の社会制度とは、人を保護する目的でできていると思っているだろう。それは誤解だ。大人ほど、不文律で動く。何も書かなくともすべてがなめらかに進み、問題が起こらない。

社会も上質な社会ほど法律が少ない。イギリスは憲法がない。不文律の憲法だ^{*42}。トランプ大統領は、1つ法律を作った場合、3つ古い法律を消したことで有名だ。どんな法律でもそこにあれば、それは生きている。だから、無益な法律は破棄して行く必要があるのだ。できれば、最初から法律に書かないことが大事だ。常識で済ますのだ。

ところが、最近では箸の上げ下げ、男女の嗜好まで法制化しようとしている有様だ。こういうことは男女の粹や酔狂としてその個人の好みの問題に留めるべきなのだ。他人はその人の性的嗜好までとやかくいう必要はない。それをわざわざ LGBT^{*43}とか SDGS^{*44}とか法制化しようとする。法制化が社会進歩だと全く逆のことを考えているのだ。一度法律にすると、それがどんな悪影響を及ぼすか

^{*42} <https://ja.wikipedia.org/wiki/イギリスの憲法>

^{*43} LGBT とは、Lesbian (レズビアン、女性同性愛者)、Gay (ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー、性別越境者) の頭文字をとった単語。

^{*44} Sustainable Development Global Goals の略。

についての考察が抜けている。

無能な政治家や無能な役人ほど余計に法律を作る。法律は少ないほど良いのだ。

サッカーでは、「最高のレフェリーとは、全く目立たずピッチにいないかのようなレフェリーだ」という諺がある。こういう優秀なレフェリーだと、すべてがなめらかに試合だけがすみやかに進行する。レベルの低いダメなレフェリーほど、試合中目立つのだ。

昨今の若手大臣は、毎日突飛な法律を主張しよく目立つ。これはこれで困りものだが、その意味が分かっただろう。